

農工食連携で個性的なりんご新品種のデビュー作戦

要約

生食・加工両用の「あおり24」と「あおり25」をモデルに、民間と研究部門間との連携により、生産技術の確立、加工商品の開発、流通販売ルートの開拓に同時に取組み、ブランド化の方法を探りました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

鮮やかな緑色が印象的な「あおり24」と、病害に強い「あおり25」を育成しました。量産品種向けの市場では普及が難しい個性的な新品種について、普及とブランド化の方法を探ります。

2. 内容

- ・「生産」「加工・利用」「流通・販売」の3つの研究会を組織し、良品安定生産の基盤づくり、品種特性を生かした加工商品の開発、需給のマッチング方法や有効な販売ルートの調査に取り組みました。
- ・農林、工業、食品加工部門の研究所、約30名の生産者、普及指導員、苗木業者、パティシエ、シェフ、加工業者、流通・販売者等が参加しました。
- ・品質安定化のために、収穫指標や品質基準を設定し、一元集出荷の拠点を確保しました。
- ・シードルなど30品余りを試作し、「青りんごグミ」を商品化、アップルパイを試験販売しました。
- ・アンケート調査等から、生果・加工両輪での販売が可能で、専門店やネット、イベント等の販路が有望と判断しました。

3. 活用等

- ・「あおり24」生産・利用研究会会員が生産した果実を、首都圏の高級スーパーや大阪の製菓店に販売し、好評を得ています。さらに会員、生産量、販路の拡大を図っています。
- ・「あおり25」は、減農薬栽培モデル園での試験栽培を継続して、市場性を探ります。



写真1 左「あおり24」、右「あおり25」



写真2 生産研究会の様子、試作品の一部、プレデビューイベントの様子

関連情報

- ・「あおり24」生産・利用研究会は商標「はつ恋ぐりん」を取得し、平成26年産から使用します。また、「あおり24栽培マニュアル」を(公財)中央果実協会の補助事業を利用して作成しました。

りんご研究所 品種開発部・病虫部 Tel. 0172-53-6131 E-mail nou_ringo@aomori-itc.or.jp
弘前地域研究所 生活デザイン部・食品素材開発部
農産物加工研究所 研究開発部

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

